

経営比較分析表（令和6年度決算）

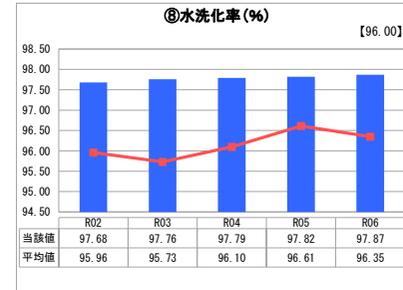
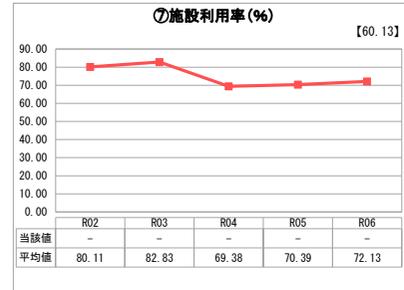
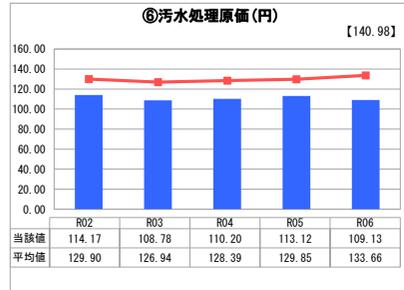
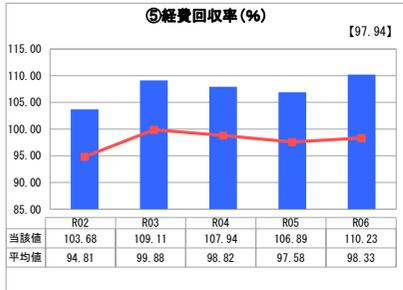
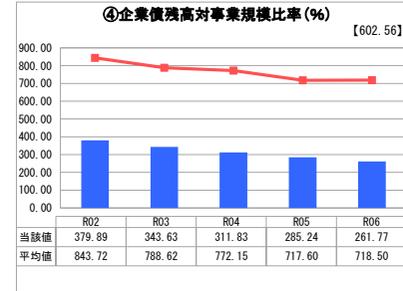
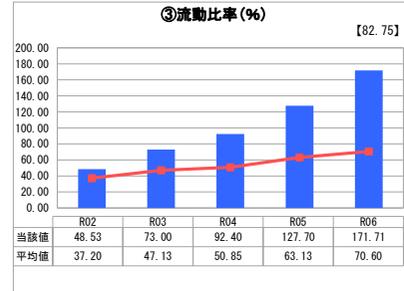
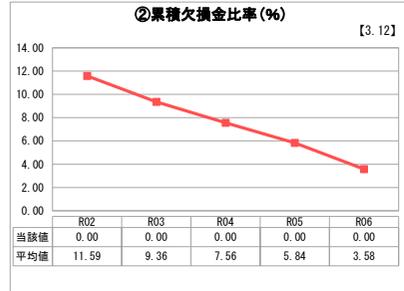
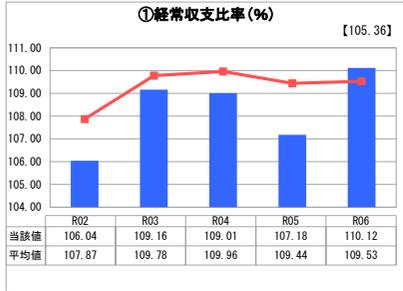
東京都 稲城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	85.51	99.32	95.44	2,068

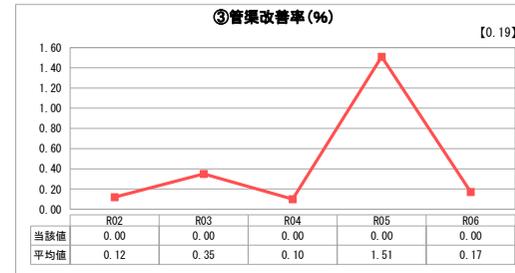
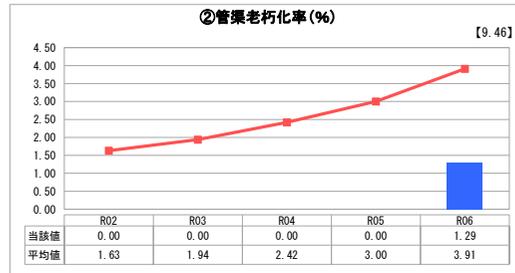
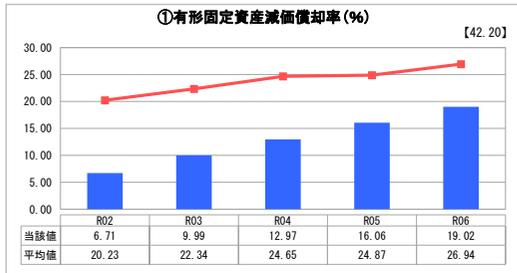
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
93,916	17.97	5,226.27
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
93,478	11.38	8,214.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

稲城市では、土地区画整理事業等により、長期総合計画の計画期間内である令和12年度まではゆるやかな人口増を見込んでいることから、有収水量・使用料収入の急減はないと見込んでおります。

一方、元利償還が進んでいることから、④企業債残高対事業規模比率も減少しており、類似団体平均値を大きく下回っている他、①経常収支比率や⑤経費回収率は100%を超え、黒字収支となっており、安定した経営状況となっています。

③流動比率についても、起債償還のピークを超えたことから改善傾向であり、100%を上回りました。

以上のことから、現状、安定した経営状況ではありますが、今後も接続促進等を行い、⑧水洗化率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

稲城市の公共下水道事業は昭和56年度から開始しているため、これまでは管渠などの主な資産は法定耐用年数を超えては来ていませんでしたが、法定耐用年数が到来した資産が出てきました。

しかし、資産の老朽化度合を示す①有形固定資産減価償却率や②管渠老朽化率は平均を下回っており、今後は修繕・更新事業が課題となってくることから、令和2年度に策定したストックマネジメント計画実施方針に基づき、計画的に調査・点検、修繕・更新を行ってまいります。

全体総括

稲城市では、土地区画整理事業等で人口の増加が続いており、第五次稲城市長期総合計画では、計画期間である令和12年度まで微増ではありますが、人口の増加が見込まれています。

従って、有収水量の大きな減少はないと予想しておりますが、物価高などによる⑥汚水処理原価の上昇を予想しています。

さらに、今後は施設の老朽化により多大な維持管理費用や更新費用が必要となることが見込まれることから、下水道事業経営戦略、ストックマネジメント計画実施方針を基に、持続可能で安定した経営基盤の構築を行ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。